

演 題	利用者様の希望をあきらめないために
副 題	あなたが今、したいことはなんですか？

フリガナ	カイゴロウジンホケンシセツ ナーシングプラザミタマ
施 設 名	介護老人保健施設 ナーシングプラザ三珠
フリガナ	サギョウリョウホウシ ツチヤ メグミ
発表者(職名・氏名)	作業療法士 土屋 愛
フリガナ	リハビリスタッフ イチドウ
共同研究者	リハビリスタッフ一同

## 【はじめに】

「美味しいものが食べたい」「〇〇へ行きたい」「家に帰りたい」したいことは人それぞれ。

私達が日頃関わっている利用者も同じように考えると同時に自分でトイレに行く、自分でご飯を食べるといった私達にとっては当たり前なことでは心から願っていることだと思ふ。ではその当たり前が突然無くなってしまったらどう感じるのだろうか？

## 【目的】

今回、一時的な麻痺により利き手が上手く使えないことに対し気分が落ち込み、リハビリに対し拒否のある利用者を担当した。関わりの中で今、何がしたいか希望を聴取すると「右手でご飯を食べて、字を書いて、また編み物がしたい」と話してくれた。

今まで出来ていたことが突然できなくなった虚しさ、切なさは計り知れず、意欲を失いかけていた方にもう一度楽しみをもった生活を送ってほしい。そう考え、できることを増やしていくために意見を交わしながらリハビリを行った過程をまとめた。

## 【対象者情報】

主病名：腰部脊柱管狭窄症(コルセット使用)

右橈骨神経麻痺(シーネ固定)

正中神経麻痺様症状認める

→手関節の背屈と第1～3指の屈曲に制限あり

移動：U字歩行器+近位見守り、長距離は車椅子

入浴：リフト浴+キャリー

食事：左手でスプーンを使用、要時間

右手は把持する力が弱く握り続けるのが困難  
乗せた食物を落としてしまう

書字：ペンの握りに必要な第1～3指に力が入らず、  
持っていられない

## 【方法】

実施期間：6月6日～7月18日(週5回)

『右手で食べる・字を書く』へのリハビリを開始

内容：右上肢の可動域訓練・マッサージ(毎回)

筋力訓練・ペグボード(筋力強化・手指機能向上)

自助具を使用した動作訓練(食事動作)

ペン用自助具製作・なぞり書き等の書字(書字訓練)

## 【経過】

食事：丸めた花紙を食材に見立て、自助具のスプーン・箸など段階に合わせた動作訓練を実施、回数を重ねるごとに所要時間が短縮し、普段の食事時も自ら右手で摂取・箸に挑戦するなど意欲的な様子あり。  
書字：自助具を作成、ひらがなや漢字のなぞり書き・書き慣れた名前の書字を実施。指先の屈伸や手首の掌背屈動作の困難さから弱々しく左下へ曲がってしまう様子が見られた。課題点を分析し改めて自助具を作成し反復訓練行うことで改善みられる。

## 【結果】

食事：右手を使用し通常のスプーンで摂取

書字：自助具を使用ししっかりと筆圧で書字可

移動：シルバーカーにてフリー

入浴：一般浴+キャリー

と、本人の希望に合わせた結果を得ることが出来た上に、リハビリ室への移動等で活動量が増えたことにより下肢機能の向上を認め、移動方法や入浴時の動作にも影響がみられた。

## 【考察とまとめ】

開始当初にはスプーンを左手に持ち替えていたのが、箸を使用し右手で食事をとり、自助具を使いながら自身の名前をしっかりと書くことができるようになった。しかし、このような機能回復がみられたのはリハビリによる効果だけではないと考える。

意欲と運動機能回復の関係について、東京都医学総合研究所・西村幸男氏は「リハビリテーションでは、患者のリハビリテーションに対するモチベーションが高いと回復効果も高まる」と述べており、今回の結果も本人の「これをしてほしい」という意欲から身体機能を引き出すことが出来たのだと考える。

日々の業務でセラピスト・介護者本位になる場面も少なからずあると思われる。日常生活において本人の希望や意思が伴わない状態で介助をすることは精神的苦痛を感じ、身体機能を最大限生かせないなど利用者・介助者双方へのメリットが無い。

利用者がどう感じているのか考えながら関わるのが大切であり、今後もリハビリ職として、今したいことを叶えられるよう取り組んでいきたい。